

脳を知る

□■394



小倉光博副院長

■済生会和歌山病院に専門外来開設

70歳代の女性が「耐え難い顔の痛み」のため、近隣の病院から済生会和歌山病院脳外科の「三叉神経痛専門外来」に紹介されてきました。

口を動かすと顔面に激痛が起こるため、食べることも飲むことも、しゃべることさえできません。激痛に耐えながら苦悶の表情を浮かべている患者さんの代わりに、同伴のご家族が病状を説明してくれました。

「1年前から右側の顔に激痛が起こるようになりました。口を動かしたり、頬に触れたりするたびに瞬間的な激痛が右の頬に起こります。歯が悪いのかと思い、歯科を受診しましたが、これは歯が悪いのではなく三叉神経痛という脳の病気だといわれ、ある病院の脳外科を紹介されました。そこで痛み止めを処方され、痛みはなくなっていました」

三叉神経痛には、通常の痛み止めは全く効きません。その薬はカルバマゼピンという、てんかんの薬です。てんかんとは、脳の神経が過剰に興奮するために起こる脳の病気です。てんかん

三叉神経痛

「顔面の激痛」は手術で治る



の薬が三叉神経痛にも効くということとは、三叉神経痛もてんかんと同様、神経の過剰な興奮で起こる病気だからです。しかし話はこれで終わりではありません。

「薬は効いたものの徐々に効果が弱くなり、薬の量も増えてきました。他

このコーナーでは、読者からのご意見、関心のあるテーマを募集しています。〒640-8154 和歌山市六番丁43ハピネス六番ビル 産経新聞和歌山支局（FAX 073・435・3018）までお寄せください。

の薬も追加されましたが効果はありません。そのうち痛みのために全く食事をとれず、かろうじて水分だけを飲む状態になりました。まさに地獄の責め苦です！そして済生会和歌山病院に三叉神経痛の専門外来があると聞き、紹介されてきました」

三叉神経痛は世界三大疼痛の一つに名前が挙がるほど、強い痛みで有名な病気です。治療法のなかった時代には痛みのために自殺する人もいました。幸いにも50年前から脳の手術で治ることがわかり、今や脳外科では一般的な手術の一つになっています。

さて、その患者さんはすぐに入院してもらい、手術までの1週間、食事もできないので鼻から胃に入れた管から流動食を流し、栄養を補給しました。そして微小血管減圧術という開頭手術を行いました。手術では、脳の深いところにある三叉神経を血管が強く圧迫し、三叉神経が大きく凹んでいるのを確認しました。これが痛みの原因なので、血管を移動させて圧迫を取り除き、手術を終了しました。

麻酔から覚めると顔の痛みは完全に消失しており、飲んだり食べたりしゃべったり、患者さんは笑顔でもとの生活に復帰されました。

日頃、当たり前に行っている食事や会話が痛みのためにできなくなる。そんな病気が三叉神経痛です。その苦痛は、経験したことがない人には想像もできません。そして適切な手術で安全に痛みが治ることもあまり知られていないので、三叉神経痛専門外来を開設しました。顔の痛みで悩んでいる人は受診してください。

（済生会和歌山病院副院長 脳神経外科部長 小倉光博）